

主 題：希望をもって生きる 4

聖書箇所：ペテロの手紙第1 3章19－20節

イエスの為されたことは「義のため、すなわち主への忠実さゆえに苦しめられている」キリスト者に大きな励ましと希望をもたらしました。どんなときにも喜びと希望をもって生きることができるとペテロは教えます。前回18節で私たちは、イエスの身代わりの死とよみがえりが私たちに希望をもたらしたことを学びました。

また、イエスの死後の行動も実は私たちに大きな励ましを与えてくれるのです。19、20節から、そのことを学んで行きましょう。

☆イエスの勝利宣言

19節「その霊において、キリストは捕らわれの霊たちのところに行ってみことばを宣べられたのです。」。ここには二つの出来事を見ることができます。これがイエスの死後の行為です。

1. 「捕らわれの霊たち」のところへ行って
2. みことばを宣べた

1. 「捕らわれの霊たち」のところへ行く

初めにある「その霊において」は前置詞と中性の関係代名詞のことばですが、これは18節の「霊」に掛かっているためこのような訳がされています。イエスは死んでよみがえられたことが18節に記されていますが、「霊においては」は「聖霊によって」という意味ですから、イエスのよみがえりは聖霊なる神のわざであることが分かります。ローマ8：11「もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、…」。

復活されたイエスは、神として、霊の世界においても自由に働けるようになりました。

●では、この（捕らわれの）「霊」とは何でしょう？

1) 死んでしまった人々の霊でさばきを待っている霊のこと？

ルカ16：23－24には「その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。24 彼は叫んで言った。『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』とあり、ハデスでさばきを待っている霊です。また、

II ペテロ2：9では「これらのことでわかるように、主は、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、不義な者どもを、さばきの日まで、懲罰のもとに置くことを心得ておられるのです。」と、「懲罰のもとに置く」とあります。しかし、文脈から見ると、20節に「昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに、従わなかった霊たちのことです。わずか八人の人々が、この箱舟の中で、水を通して救われたのです。」とあって、これはノアの時代と関連しています。

・もしそうなら、どうしてノアの時代の人々だけなのでしょう？

・文法的に見て、人間の霊を指すときは「人の霊」と記されるのですが、ここにはそれが見られません。だから、この霊とは、

2) 罪を犯した天使たち＝御使いの霊＝です。

・この「霊」ということばは、「人の」と指定されていなければ、ほとんどが「天使」を指します。

・このことばは、ユダヤ人の伝統によれば天使のような超自然的な存在を指します。

・このことばは、新約時代のユダヤ人たちの間でよく知られていた偽典（旧約聖書の正典、および外典のいずれにも含まれない書）である「エノク書」には「天使」のことだと記されています。

・22節には「御使い」「天使たち」のことが記されている関連からです。

・また、同じペテロが書いた手紙にそのヒントがあります。II ペテロ2：4－6を見ましょう。

「神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました。5 また、昔の世界を赦さず、義を宣べ伝えたノアたち八人の者を保護し、不敬虔な世界に洪水を起こされました。6 また、ソドムとゴモラの町を破滅に定めて灰にし、以後の不敬虔な者へのみせしめとされました。」

故に、「悪霊」を指します。

●「捕らわれている場所」とは？

II ペテロ 2：4 「…地獄に引き渡した」、

「地獄」とはギリシャ語で「タータロス」といい、古代ギリシャ人が信じていた悪徒が死後行くべき海底の冥暗の場所です。ここはゼウスに反抗的な神々がさばかれ、永遠の刑罰として閉じ込められる地下の底知れぬ所です。ギリシャ神話ではここは最低の地獄なのです。それが墮落した天使たちの牢獄を意味するところとしてユダヤ教が用いるようになったのです。ハデスよりはるかに低いさばきのところとしてユダヤ人の終末論にあります。

●「罪を犯した御使いたち」はどのような罪を犯したのでしょうか？

ユダ 6、7 節、「また、主は、自分の領域を守らず、自分のおそるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められました。7 また、ソドム、ゴモラおよび周囲の町々も彼らと同じように、好色にふけり、不自然な肉欲を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受けて、みせしめにされています。」 「自分の領域を守らず、自分のおそるべき所を捨てた御使いたち」、これはノアと、ソドムとゴモラの時代の出来事を指しています。それは、I ペテロ 3：20 「従わなかった霊たち」、II ペテロ 2：4－6 「神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引渡し、」、またユダと、これらのいずれのみことばも文脈からその時代と関係していることが分かります。創世記 6 章から「天使たちの罪がどのようなものだったのか？」見てゆきましょう。

天使たちの罪

創世記 6：2 「神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。」、「神の子ら」とは「墮落した天使たち、悪霊」のことです。その理由は、

- (a) 最も古い見方において。
- (b) 旧約において「神の子」はいつも天使を意味する。
- (c) 70 人訳（ヘブル語をギリシャ語に訳したもの）において「天使」と訳されている。
- (d) 初代教会の見方で「悪霊」を指すと。

墮落した天使たちが恐らく人のからだを取り、人間の娘との間に子どもをもうけるのです。彼らが 6：4 に記されているネフィリムです。彼らは「巨人」であり、また凶暴でした。この天使でありながら人間との間に子どもをつくった彼らが、その罪ゆえに、ユダ 6 に記されている「さばきの日まで牢に閉じ込められた」のです。

- ・「捕らわれの霊」はこのような重い罪ゆえに彼らは、さばきの日まで牢に閉じ込められました。
- ・2 種類の悪霊があります。タータロスに閉じ込められている悪霊と、自由にサタンに仕えて人々に働きかけ、人を神に背かせる悪霊です。

→ノアの時代、世の中が悪に染まっていたため、神は正しいノアに箱舟の製作を命じました。この時代の人々の状態はソドムとゴモラと関連しています。ノアの箱舟は神から人へのメッセージです。次に人間の罪について見てみましょう。

人間の罪

創世記 6：5 「主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。」、ここから二つの罪を見ることができます。

(a) 知的墮落＝「その心に計ることが…悪いことだけに傾く」、これは心で考えたうえで罪を選択すること、心で認識、理解したうえでの墮落です。

エペソ 4：18、19 を見ましょう。「彼らは、その知性において暗くなり、彼らのうちにある無知

と、かたくなな心とのゆえに、神のいのちから遠く離れています。19 道徳的に無感覚となった彼らは、好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行ないをむさぼるようになっていきます。」

真理を知っていながら、自分の意志で救いを拒み続けている人々です。彼らに待っているのは永遠のさばきです。しかし、救いはあります。神のメッセージです。

(b) 性的墮落＝不品行の罪です。創世記 18、19 章にはソドムとゴモラの罪が書かれています。

18：20 「ソドムとゴモラの叫びは非常に大きく、また彼らの罪はきわめて重い。」、そして、

19：5 には「そしてロトに向かって叫んで言った。『今夜おまえのところにやって来た男たちはどこにいるのか。ここに連れ出せ。彼らをよく知りたいのだ。』」とあり、この「知る」とは性的に知ることということで同性愛の罪を指します。ユダ 7 にはこのように書かれています。「また、ソドム、ゴモラおよび周囲の町々も彼らと同じように、好色にふけり、不自然な肉欲を追い求めたので、永遠の火の

刑罰を受けて、みせしめにされています。」と。

このような罪の時代であったのです。自分の目に良いと良いと思うことをして神に逆らい続ける人々、また、「自分の領域を守らず、自分のおるべき所を捨てた」悪霊は、20節に「神が忍耐して待っておられたときに、従わなかった霊たち」と教えるように、ノアが箱舟を造っていた120年間に、彼らは世に大きな影響を与え続けたのです。彼らの行動の目的は、罪人が継続して偽りの神である悪魔＝サタン＝を信じ続け、罪の赦し、救いに与らないようにすることです。だから、だましたり、惑わしたりして、この救いを信じないようにと働き続けるのです。これは今現在もその通りなのです。

以上、イエスの死後の行動の一つ、「捕らわれの霊たち」のところへ行く＝罪ゆえにタータロスに捕らわれた悪霊たちのところへイエスは行かれた＝を見てきました。次に、もう一つの行為を学びます。

2. みことばを宣べられた

これは「福音、救いのメッセージ」と考える人たちがいます。信じないで死んだ人々にも救いのチャンスがあると。なぜなら、語られたのが福音だからと言います。しかし、罪の赦しは天使たちには与えられません。

宣べられた＝このことばは「布告する、言い広める」という意味で、福音ではありません。そのことを明らかにするために、日本語訳ではここに「みことば」ということばを加えたのです。この当時、伝令官は戦いでの勝利を布告しながら将軍や王に先立って行進しました。イエスがなされたことはこの働きでした。ご自身の働きを布告したのです。これは救いのメッセージではなく、罪、死、地獄、悪霊、悪魔に対する勝利を布告したのです。「わたしは勝利したのだ！」と。

サタンに対する勝利、それは、

アダムとエバを誘惑し罪へと導いた。→創世記3：15

（イエス誕生のとき）救い主を殺そうとする。→マタイ2：16－21

救い主を罪へと誘惑する。→マタイ4：1－11

十字架で殺す。墓の番をさせる。

これらサタンの働きに対して、イエスは敢然と勝利されたのです。

結論

20節「水を通して救われたのです」

これは、水、洪水によるさばきを箱舟によって救われたことを示しています。ノアは人を恐れなくてみことばを語り続けました。彼はすばらしい祝福、救いを得ました。

私たちも神に忠実に歩み続けるなら、主の祝福が与えられるのです。